

スポーツの県別特性と診断

— 日本教育地図の試み(1) —

新堀通也 ○田中亨胤 前本長總
片岡徳雄 ○成瀬玲子
森 琢 新富康史

広島大学

I. 本研究の目標

教育の各県別特性に関する研究は、教育社会学の分野では、極めて少ない。一口に教育といっても、国によって、そのあらわれ方が様々であるように、日本の教育と一口にいつても、地域、県によって異なったあらわれ方を示す。これは、その国なり地域のおかれた諸条件によって異なると思われる。そこで、わがわがの研究室では、この要国の下で、「日本の教育地図」の研究を行っており、本研究は、その一環をなすものである。そして、「日本の教育地図」推進のための第一段階として、体育・スポーツを取りあげることにした。この分析結果の一部については、既に前回の大会にて発表したので、今回は個々の分析ではなく、いわば総合的結果について診断的観点から報告する。

本研究の意図および仮説は次のように要約される。

- (1) 各県の民力と体育条件との関連性(各県の体育条件に対する熱意度の測定)。
- (2) 学校体育と一般社会の体育との比較。
- (3) 体育条件(学校と一般社会)の人口・施設・資金の側面からの分析。それによる各県の体育条件のプロフェシル化。
- (4) 体育条件とスポーツ人口輩出率の比較(各県の体育努力の測定)。
- (5) 知育・徳育・体育の比較(各県の教育バランスの測定)。
- (6) 各県のスポーツの特性(県民性、風土、伝統とスポーツとの関連性の把握)の抽出。

前回は、特定時点での分析、時系列的分析、プロフェシルおよびタイプロジー分析、あるいは条件と結果との相関分析によって、各県の体

育・スポーツの特性を逐々ほり出すことと目指した。

II. 分析の手続き

(1) 指標設定

指標設定に関しては、次の要領で行った。①民力 ②体育・スポーツ条件(学校と一般社会) ③体育結果 ④教育のバランス ⑤スポーツのタイプ ⑥エリート選手の輩出率。以上大きく六つの領域に指標を分けて設定した。そして、各領域の中に、個々の固有の指標を設定した。

(2) 指標の分析方法

各指標の中で、人口的バイアスのある場合は、県人口、スポーツ人口、あるいは生徒数を母集団として、一人あたり、または一学級あたりの数値を算出して、バイアスと取り除いた。次に、その全国平均を100として、各県の指数を算出(ただし、非行発生率などのマイナス要因は、逆指数化して算出)。さらに、得点化が必要な場合は、ウエイトづけを行うことにより、各県の指数を算出。

III. 結果

数面の関係上、分析結果として、県別スポーツ特性一覧表に掲載するにとどめる。

